

第5回 地域振興官民協働委員会議事概要

日 時	平成 25 年 2 月 21 日 (木) 15:30~17:30
会 場	佐渡市役所 第二会議室
出席者	松田祐樹、渡辺啓嗣、鈴木涼太郎、地多正光 大橋幸喜、藤原淳、斉藤昌彦、中村長生
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ■平成24年度の状況について（報告） ■平成25年度に向けた計画について ■各地区と補助事業のマッチング及び支援について
議事概要	<ul style="list-style-type: none"> ■平成24年度の状況について（報告） <p>まず平成23年度に作成した地域活動支援事業資料を説明し、地域の抱えている課題を再確認し、平成24年度の動きとして、地域活動支援員や地域おこし協力隊の配置状況、各地区の取組を説明。</p> <p>またこれらを踏まえ平成24年度4回の委員会を経て、地域振興官民協働の一枚概要を作成し、市長に報告した旨を伝える。</p> ■平成25年度に向けた計画について <p>この概要を作成することが目的ではなく、この方向性のもと、官民の連携により今後の取組を進めていく必要があることを確認。</p> <p>中間支援の可能な組織の育成、人材の育成事業を実施しながら育成するため、地域の課題に応じた対策を企画し、佐渡おこしチャレンジ事業や各省庁の助成金もにらみながら地域を支援していくこととする。</p> <p>各地区の取組をコミュニティビジネスに繋げる、発想の転換や結び付け、意識の向上に寄与できるよう、次年度以降研修会やネットワーク化を中心に官民協働委員会を開催していきたい。</p> <p>また、本年度様々な地域との関わりを持つ中で、ワークショップにより課題と方向性を見出すことが必要な地域もあると思われるので、地域支援員や地域おこし協力隊を中心に展開していきたい。</p> <p>次年度の地域の取組をスムーズに行うため、根回しや概要説明を実施し、方向性を共有している。(羽茂の能合宿や新潟大学の入門教育実習、集落合併のための下打合せ)</p> ■各地区と補助事業のマッチング及び支援について <p>市役所の職員の事務局能力は非常に高いし、地域においても事務局にいてもらえると様々な助成金が活用できる。職員がいないところは支援員や協力隊を事務局に据えて地域活動を支援できるように取組みたい。(協力隊を孤立させない、労働力ではなく、事務局に専念してもらえる体制を整える必要があるのではないか。)</p> <p>事務局が孤軍奮闘している姿が多くみられる。側面からの支援が</p>

	<p>重要で、側面を支援できる層を作っていく必要がある。</p> <p>出ている芽は伸ばす、芽が出ていないところは種まきと管理をする支援員や協力隊を活用する。</p> <p>様々な助成金があるので、出てから準備しては間に合わない ので、紹介したような助成金をにらみながら、地域にマッチさせて いけるよう、関わりを作っていくこととしたい。だいたい、10月 ～12月に次年度の提案募集があるので、今後の官民協働委員会で 支援していきたい。</p> <p>次年度の支所予算も確保されるので、連携していく。</p>
<p>次回検討 事項</p>	<p>今後は、地域振興官民協働委員会の中に地域活動支援員も交え、 ネットワークを広げていく。</p> <p>支援員や協力隊を孤立させない「相談員」というものも必要。早 めに協力隊を組織化し、指示、命令と協力できる体制を構築する必 要がある。</p>